平成28年度　全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　塔野　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1．調査の目的

⑴ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2．調査内容

⑴ 教科に関する調査（国語，算数）

主として「知識」に関する問題（A）	主として「活用」に関する問題（B）
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

⑵ 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語A・B，算数A・B）の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

⑵ 本校の学力調査結果の分析

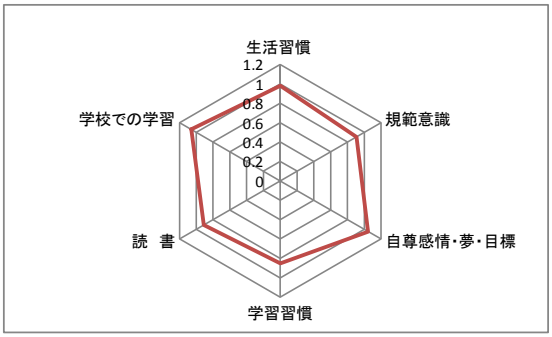
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、言語知識理解についての基礎的・基本的な内容の定着が図られていた。 ・話し合いの観点に応じた情報を収集し、話し合う活動を取り入れる必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的や意図に応じて書く事柄を整理する問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉える問題の正答率は低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を上回っていた。 ・分かったことや調べたことを的確に書く問題に課題があり、読み取った内容を的確に書く活動を授業に取り入れる必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する問題の正答率は高かった。	
	努力が必要な問題	目的や意図に応じて、表を基に、自分の考えを書く問題の正答率が低く、無回答率も高かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を上回っていた。数量についての技能の基礎ができている。 ・図形についての知識・理解に関する問題に課題があり、図形についての理解を深める必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	末尾の位のそろっていない小数の加法の計算をすることができる問題の正答率が高く、無回答の児童はいなかった。	
	努力が必要な問題	三角形の底辺と高さの関係について理解している問題の正答率は低かった。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率を上回っていた。数学的な考え方の基礎ができている。 ・単位量あたりに関する問題で、式に正しい数字を当てはめる問題に課題があった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、その説明を記述する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	割合などを求めるために、ほかに必要な情報を判断し、特定することができる問題の正答率は低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・毎日同じ時刻に寝ている児童の割合は全国平均よりも低かったが、携帯電話やスマートフォンを利用する時間が1時間以上の児童の割合は全国平均よりも低く、約束を守ることができていている。
・学校での学習は熱心に取り組むことができているが、自分で計画を立てて勉強している児童の割合は全国平均よりも低かった。家庭学習チャレンジハンドブックの活用や自主学習ノートの配布、活用方法を指導していく。
・自尊感情・夢・目標について、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも高かった。本校において自分のよいところを見直す取組を定期的に更新している。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

・ 国語科の漢字について、朝の学習時間に漢字練習を各学年で取り組み、漢字の習得を図る。
・ 国語科・算数科の学習を中心に1時間の中に、ホワイトボードや学びボードを活用して、ペアやグループでの話し合い活動を仕組み、考えの交流や発表の仕方を定着させる。
・ 朝の学習では児童一人一人の課題に応じた問題に取り組み、放課後は全体での計算力を高める問題に取り組む時間を設定している。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・ 家庭学習チャレンジハンドブックを活用して、保護者に家庭学習の啓発を行っている。
・ 自主学習ノートを配布し、予習や復習などに取り組めるようにする。
・ 高学年を中心に小中連携教員がT2として授業に参加し、課題の共通理解等を図っている。